

神田外語大学紀要第 29 号
抜刷 2017 年

The Journal of Kanda University of International Studies Vol. 29 (2017)

道徳の教科化にむけての小・中学校教員の ニーズ調査

小 柴 孝 子
武 田 明 典
村 瀬 公 胤

道徳の教科化にむけての小・中学校教員の ニーズ調査

小柴 孝子¹
武田 明典²
村瀬 公胤³

要 旨

道徳の教科化に向けて、道徳教育が注目されている。背景にあるのは、社会的喫緊の課題であるいじめ防止の観点から、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりのなどの豊かな心の育成などがあげられる。

本研究では、現在の道徳教育について、これからの道徳の授業についての2つの視点で、教職員のアンケート調査を実施した（有効回答 902名）。調査内容は、1)道徳の授業をする上で難しい点；2)現在の道徳の授業について；3)道徳教育で子どもたちに育てたい力；4)道徳の授業力を高めるために必要なこと；5)これからの道徳の授業について；そして、6)教職課程の道徳教育の科目に期待することについての自由記述である。結果からは、道徳の授業の課題、小・中学校の教職員のニーズの相違、自由記述による特徴が見られた。

キーワード：道徳教育、教科化、教員、ニーズ調査、教職課程

¹ Takako KOSHIBA 神田外語大学

² Akenori TAKEDA 神田外語大学

³ Masatsugu MURASE 麻布教育研究所

1. 問題

学校の教育活動を通じて行う道德教育を補充・深化・統合するための時間として、各学年週1時間の「道德の時間」が特設されたのは、1958年の学習指導要領改訂時からである。なお、道德の時間における指導は、学級担任が行うとした。1968年の改訂では、基本的な内容や教育的役割には大きな変更はなかったが、目標に「道德性を養う」という文言が新たに加わった。1977年の改訂では、「道德の時間」の目標として「道德的実践力を育成するものとする」が加えられた。1989年の学習指導要領の改訂においては、1958年以来の大幅な道德教育の改善がなされた。大きな特徴は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の道德教育の一貫性が図られたことと、道德の時間の指導内容が子どもたちの発達段階に応じて重点的に示されたことである。「道德の時間」の目標として「道德的心情を豊かにすること」が強調された。1998年では、「道德の時間」の目標に「道德的価値の自覚を深めること」を付け加えた。2002年には、心のノートが全国の小・中学校に道德の補助教材として、無償配布された。

2008年の改訂では、「道德の時間」の役割を、「道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」としてとした。目標では、道德的価値の自覚を一層促し、「自分の生き方について考えること」を付け加えた。

現在、道德教育は、大きな転換期を迎えている。学校における道德教育の改善と充実が強く求められている。2013年2月の教育再生実行会議の第一次提言では、「いじめの問題等への対応について」の中で、「本質的な問題解決に向かって・・・道德教育の重要性を改めて認識し、新たな枠組みによって教科化し」と、道德教育の教科化について提言している。この提言を踏まえ、道德教育の充実に関する懇談会が12月に報告、中央教育審議会初等中等教育分科会が、2014年9月に、「道德教育専門部会審議のまとめ」を公表、10月の中央教育審議会答申を経て、「特別な教科 道德」になった。「道德科」の目標は、「道德性を養うため、・・・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深

める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」としている。目指しているのは、考え議論する道徳科である。授業の開始時期は、小学校が2018年度から、中学校が2019年からである。

道徳の教科化に向けた動きにともない、これからの道徳教育の方向性、道徳の授業についての児童生徒への影響や教師の意識の変化、教材研究、発問や板書の仕方などの指導方法についての具体的な課題が議論されている。

松下（2011）は、学校における道徳教育とは、もっぱら教育方法や技術の問題であるとして、ここに疑問を投げかけ、道徳教育はどこに向かえばいいかを論じている。住友（2013）は、今の道徳教育に求められているのは、教科化でなく、何のための道徳教育かと言うことを議論することではないかと提言している。柴山（2014）中学校の道徳教育における教材研究のあり方や指導方法を検討している。岡田（2015）は、道徳の授業及びその教科化についての研究の中で、教科が持つ影響力を言及している。新川（2016）は、効果的な道徳教育のための指導方法のあり方を研究している。作田・中山（2016）は、教科化することで、児童生徒たちの意識が変わることや授業を行う教師の児童生徒への支援する意識が高まり、道徳に対する工夫改善が期待できるとしている。

また、教職員の道徳についてのアンケート調査では、文部科学省の道徳教育実施状況調査（2012）、東京学芸大学の道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査（2012）などがある。

本調査では、道徳の教科化への流れの中で、教職員の道徳の授業について問題意識やニーズ調査法を行い、また、教職課程の道徳教育に関する科目への意見を自由記述で問うというものである。

2. 目的

本研究の目的は、道徳の授業について質問紙調査法を行うことにより、道徳の教科化にむけての教職員のニーズと課題を把握することを目的とした。

3. 方法

3. 1 本調査対象者および調査時期・方法

本調査対象者は、A 県内公立小・中学校の教員 905 名（小学校 516 名、中学校 389 名、）であった。回収した調査用紙から、1)校種、職種、性別、経験年数、担当する教科（小学校は最も関心の強い教科）、学校の規模などのフェースシート箇所に欠落のある物、2)調査用紙の裏面（ないしは、片面）が全て未記入の物の何れかに該当した調査用紙を除き、902 名（小学校 514 名、中学校 388 名）を分析対象とした。

調査時期は 2016 年 7～8 月であった。調査方法としては、質問紙（Appendix 2 参照）を各学校と研修会で配布・実施・回収を行った。

3. 2 本調査質問紙の構成

質問紙は、東京学芸大学の道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査（以下「教員を対象とした調査」と表記）を参考に、道徳科の授業についての本研究独自の質問項目を加えて構成した。無記名式の質問紙（A3 版両面に印字）を用い、調査目的の説明の後、回答記入という手順であった。調査対象者の校種、職種、性別、経験年数、担当する教科（小学校は最も関心の強い教科）、および学校の規模に加え、1)道徳の授業をする上で難しい点；2)現在の道徳の授業について；3)道徳教育で子どもたちに育てたい力；4)道徳の授業力を高めるために必要なこと；5)これからの道徳の授業について；そして、6)教職課程の道徳教育の科目に期待することについての自由記述による質問項目に対して回答を求めた。

4. 結果

調査の結果を以下に記す。

4. 1 調査対象者の概要

調査対象者の学校種・職種・性別・経験年数・教科・学校の規模を Table 1～6 に示す。

Table 1 学校種

	人数	割合 (%)
小学校	514	57.0
中学校	388	43.0
合計	902	100.0

Table 2 職種

	人数	割合 (%)
管理職	67	7.4
教員	827	91.7
合計	894	99.1

Table 3 性別

	人数	割合 (%)
女性	467	51.8
男性	435	48.2
合計	902	100.0

Table 5 教科

	人数	割合 (%)
国語	197	21.8
社会	106	11.8
算数、数学	196	21.7
理科	86	9.5
生活	21	2.3
音楽	36	4.0
図画・工作、美術	33	3.7
体育、保健体育	118	13.1
家庭、技術	29	3.2
外国語	67	7.4
無回答	13	1.4
合計	902	100.0

Table 4 経験年数

	人数	割合 (%)
10 年未満	347	38.5
10-20 年未満	174	19.3
20-30 年未満	150	16.6
30 年以上	231	25.6
合計	902	100.0

Table 6 学校の規模

	人数	割合 (%)
11 学級以下	204	22.6
12-24 学級	572	63.4
25 学級以上	126	14.0
合計	902	100.0

4.2 道徳の授業をする上で難しい点

道徳の授業をする上で難しい点については、Figure 1 のとおりである。難しい点として上位に挙げられているのは、①「発問」、②「指導方法」、③「意見の交流」、④「資料を探す」などである。一方、低いのは、「ワークシートの作成」、「導入」、「展開」などである。

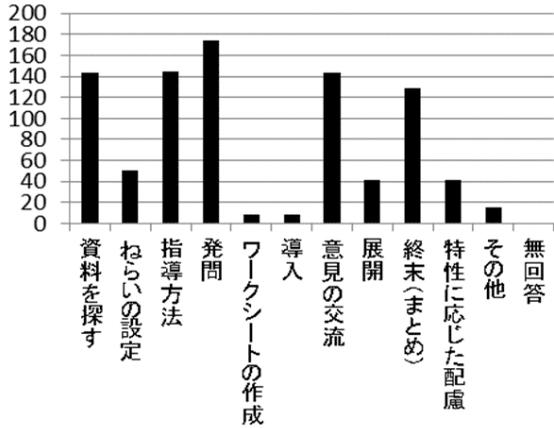


Figure 1. 道徳授業をする上で難しい点 (全体)

小・中学校の比較をすると、Figure 2 のとおり、小学校では、①「発問」、②「意見の交流」、③「指導方法」の順になっている。中学校では、①「資料を探す」、②「指導方法」、③「発問」の順になっている。

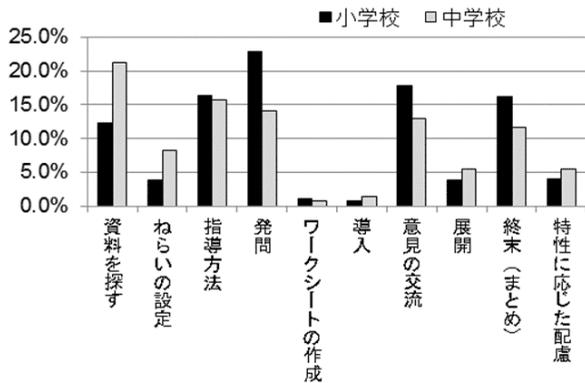


Figure 2. 道徳授業をする上で難しい点 (小・中学校の比較)

4.3-1 現在の道徳の授業について

現在の道徳の授業について、十分に行われていると思うか不十分と思うかについて、Figure 3, 4に挙げる。小学校も中学校も十分は、20%程度であり、不十分は、80%程度である。管理職と教諭を比較すると、管理職は、約40%が十分と思っており、教諭よりも高い割合になっている。

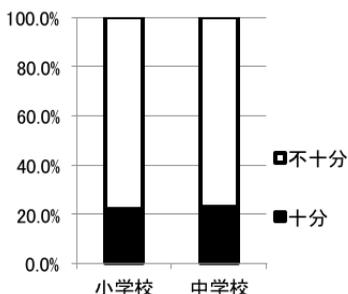


Figure 3 道徳の授業について
(小・中学校の比較)

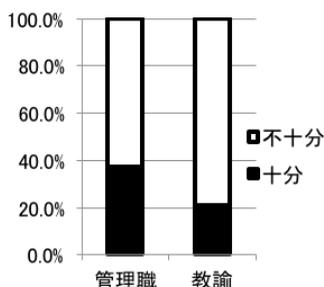


Figure 4 道徳の授業について
(職種の比較)

4.3-2 現在の道徳の授業について；不十分な理由

現在の道徳の授業について、不十分な理由は Figure 5 のとおり、①「忙しくて他の指導に時間を取られがちである」、②「指導の仕方が難しい」、③「道徳の時間の目標や意識が十分に理解されていない」の順である。小学校と中学校で比べても、この上位3つは同じであった。

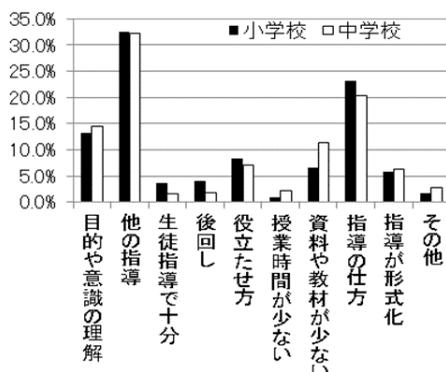


Figure 5 道徳の授業が不十分な理由

4.4 子どもたちに育てたい力

質問項目は、改訂学習指導要領（2015）に示す道徳の内容のうち、小学校と中学校の内容を合わせて、整理して20項目に示したものである。道徳教育で子どもたちに育てたい力は、①「善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任」、②「親切、思いやり、感謝」、③「生命の尊さ」の順になっている。小学校と中学校で比較をすると、小学校も中学校も、この順位は変わらなかった。

しかし、小・中学校の平均点の差についてt検定を行ったところ、「善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任」、「節度、節制」、「個性の伸長、向上心」、「親切、思いやり、感謝」、「友情、信頼」は、小学校が1%水準で有意に高かった。「よりよい学校生活」、「感動、畏敬の念」は、中学校が1%水準で有意に高かった。

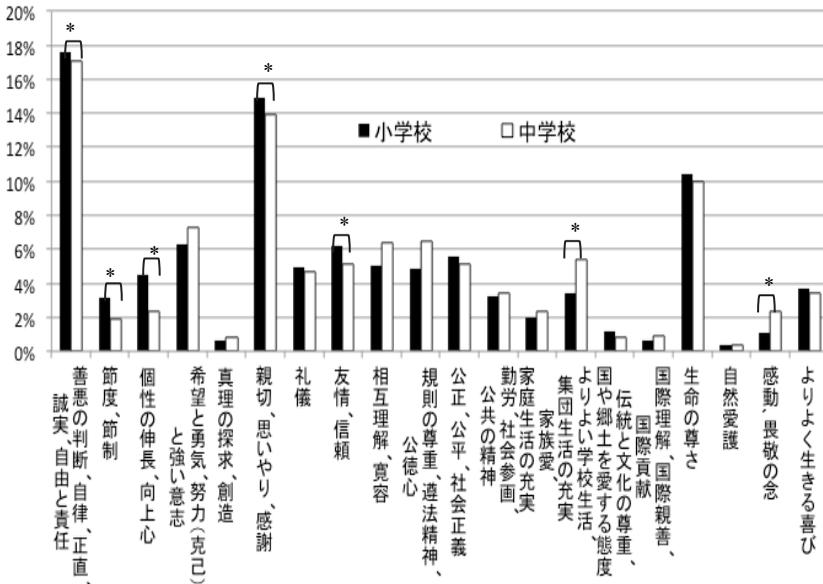


Figure 6 子どもたちに育てたい力（小学校と中学校）

4.5 道徳の授業力を高めるために必要なこと

道徳の授業力を高めるために必要だと思われることについて、全体としては①「達人の授業参観」、②「学級経営の充実」、③「先輩の授業を参観」の順になっている。

しかし、小・中学校の校種別では、Figure 7のとおり、順位が異なっている。小学校では、①「達人の授業参観」、②「学級経営の充実」、③「先輩の授業を参観」の順になっており、中学校では、①「達人の授業参観」、②「先輩の授業を参観」、③「校内研修」の順になっている。

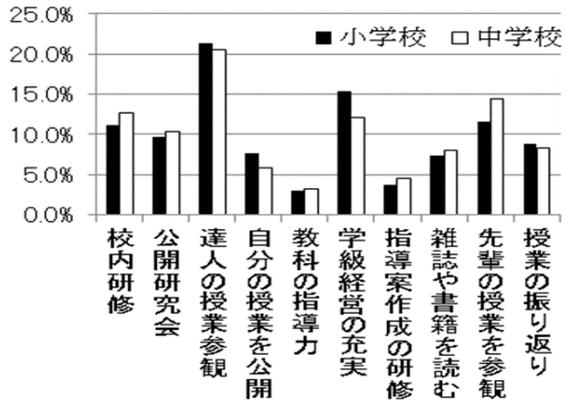


Figure 7 道徳の授業力を高めるために必要なこと

4.6-1 これからの道徳の授業についての因子分析

「これからの道徳の授業についてどのように考えますか」の問いは、35項目で質問し、「そう思わない」から「そう思う」の5件法で回答を求めた。その結果について、最尤法プロマックス回転で因子分析を行い、3因子を得た。そこでさらに、負荷量が0.3未満の5項目(4, 5, 15, 23, 29)を除いた30項目で因子分析を行った結果がTable 7である。第1因子は、道徳に多様な視点や方法を取り入れる工夫としての「多様なアプローチ」。第2因子は、授業のねらいにせまるための基礎技法として、「ねらいにせまる授業」。第3因子は、ICTや映像資料の活用としての「メディアの活用」である。

Table 7 「これからの道徳の授業について」プロマックス回転後のパターン行列

		因子		
		1 多様な アプローチ	2 ねらいに せまる授業	3 メディアの 活用
12	調べ学習	.741	-.181	-.109
30	校外体験	.704	-.169	-.006
11	自治体資料	.516	-.022	.021
9	他教科連携	.507	.113	-.069
20	保護者協力	.499	.120	-.097
8	人間関係	.456	-.082	-.047
33	性的少数者	.446	.011	.130
13	現実の問題	.431	.080	.034
24	テーマ重点	.414	.188	-.019
10	新聞ニュース	.410	.052	.050
31	担任以外	.388	.000	.112
16	複数時間	.376	-.009	.135
26	問題解決型	.363	.179	-.047
35	外部講師	.355	.023	.216
22	情報モラル	.345	.149	.106
6	心理教育	.322	.153	.070
28	ねらい意識	-.128	.762	.011
2	ねらい迫る発問	-.132	.756	-.058
1	資料提示	-.151	.702	.087
21	終末の工夫	.023	.587	.030
25	実態ふまえる	.009	.576	-.038
3	子どもの本音	-.042	.516	-.091
19	発達を意識	.125	.490	.035
7	板書の工夫	.147	.470	-.018
32	指導要領	.223	.428	.006
27	継続把握	.274	.365	-.008
14	比較しない	.097	.361	.027
18	I C T提示	-.061	-.087	.913
17	I C T作成	.035	-.035	.772
34	映像資料	.038	.137	.475

4. 6-2 3 因子とそれぞれのカテゴリーとの比較

十分・不十分との比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、不十分の群が1%水準で有意に高い。小・中学校との比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、小学校の群が1%水準で有意に高い。

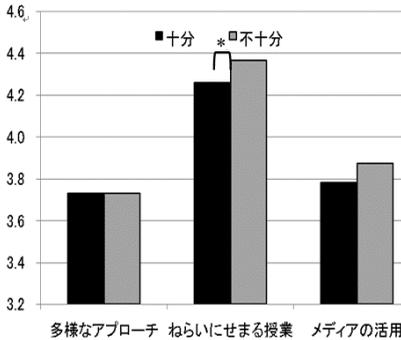


Figure 8 十分・不十分の違い

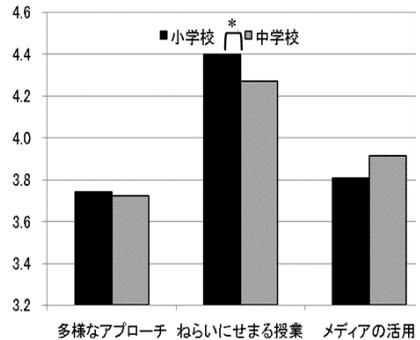


Figure 9 校種の違い

経験年数との比較をすると、「多様なアプローチ」と「メディアの活用」で、経験年数 10 年未満の群が 1%水準で有意に高い。性別との比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、女性の群が1%水準で有意に高い。

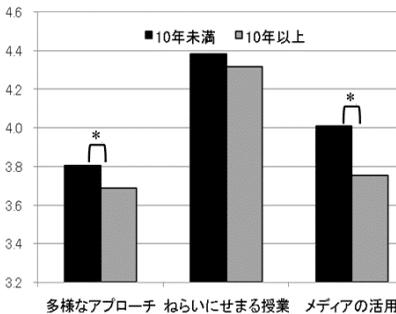


Figure 10 経験年数の違い

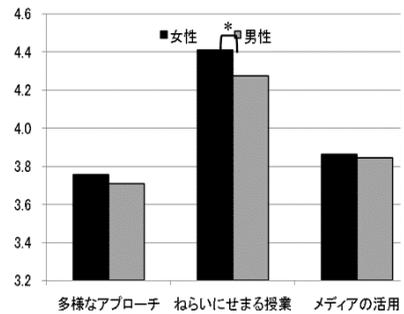


Figure 11 性別の違い

4.7 大学の教職課程の道德教育の科目への期待（自由記述）

大学の教職課程の道德教育の科目に関して自由記述で調査を行った。

(1) カテゴリー別回答数

「教員を対象とした調査」の「当該科目に関して大学の教職課程に期待すること」に関するカテゴリー分類を参考に、評価のカテゴリーを加えてコード表作成した（Appendix1）。カテゴリー別回答数の結果を Figure 12 に示す。

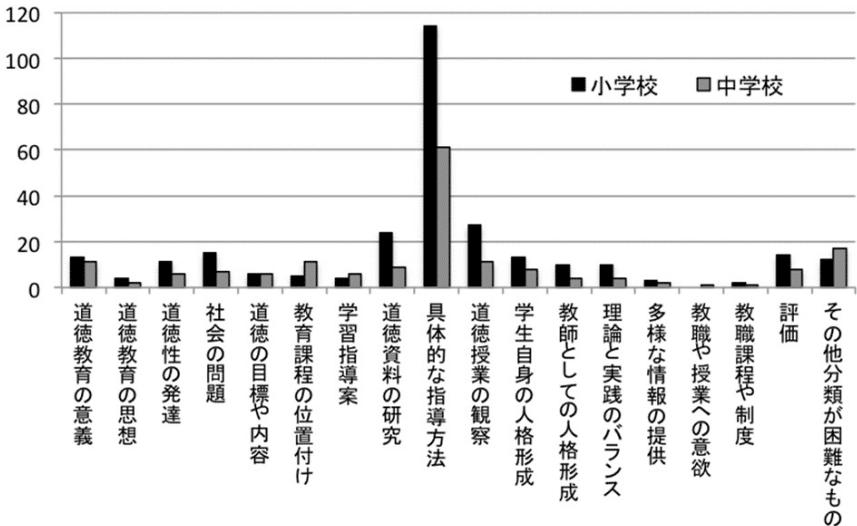


Figure 12 自由記述回答のカテゴリー別回答数

小学校の回答数は287で、多いものから「具体的な指導方法・多様な指導方法」「道德授業の観察や実体験」「道德資料の研究や開発」の順になっている。中学校の回答数は175で、「具体的な指導方法・多様な指導方法」「道德教育の意義」「道德授業の観察や実体験」「教職課程の位置づけ・全教育活動」の順になっている。

(2) カテゴリー別回答例

カテゴリー別の解答例を Table 8 に記す。

Table 8 カテゴリー別回答例

カテゴリー	回答例
意義 道徳教育の	道徳の授業を実施する意義をしっかりと理解させてほしい。 なぜ道徳を行うのか、道徳性とは何かなど、道徳の大切な部分。 道徳の目的が何でどのような手段や方法によって道徳性を高めるか。
位置づけ 教育課程の	人（生徒）とコミュニケーションをとることができる人材育成。 ボランティア教育の充実を図る。学校関係と学校以外の2つ。 自由な意見を引き出すための人間関係術、アイスブレイクなどの指導があると良い。
研究や開発 道徳資料の	資料の選択、実践、教材作り。 児童がよく考えられる（児童を引きつける）資料の開発、発掘（実話など）。 子どもの実態に応じて教材開発を行える力の育成や実態に適した資料を取捨選択できる知識やネットワーク。
指導方法 具体的な指導方法・多様な	色々なケース（価値）に関する模擬授業をたくさん行っていくことがよいのではないのでしょうか。 要領の内容を十分に理解させた上での事例や、展開例の明示。また、それらを踏まえた模擬授業、ふり返りの実施。 具体的な指導例等、授業に直接役立つものがよいと思います。 具体的な授業の進め方（発問、板書、資料の提示など）⇒ それによって子どもはどういう姿をねらうか。 生徒への言葉かけ、質問の仕方など、どう語りかけ、ねらいにもっていったらいいのかななどの方法。
観察や実体験 道徳授業の	実際の指導法を見たり、体感したりする経験。 アシスタントとして指導者側に立った実践を行う。 モデルになるような道徳の授業を大学の授業の中で見せてあげる。 実際に道徳の授業を体験すること。また、道徳の授業を参観し、どのようなねらい、効果があるのかを実感する。

5. 考 察

5.1 道徳の授業をする上で難しい点

道徳の授業をする上で難しい点として挙げているのは、小学校では、発問、意見の交流、指導方法の順になっている。中学校では、資料を探す、指導方法、発問の順になっている。中学校の資料を探す以外は、発問も意見の交流も指導技術・方法である。このことから、道徳の授業をする上で難しい点は、指導技術・方法が難しいと捉えることができる。松下（2011）は、「道徳授業では、あらかじめ正答と想定している判断や理由を子どもたちから引き出す技術が優れた授業技術だとされ、(略)道徳授業が現代の子どもたちに必ずしも支持されているわけではない。(略)道徳授業をどうやったらいいかの戸惑い、苦慮している学校・教師の姿がそこからは伺える」としている。

教員は、道徳の授業の指導技術・方法を、形式化して捉えているところがあるのかもしれない。問題解決的な学習や体験的な学習など、多様で効果的な指導方法を取り入れ、今後どのように道徳科の授業を展開したら良いかを検討する必要がある。

5.2 現在の道徳の授業についての受け止め

現在の道徳の授業についての受け止めでは、小学校も中学校も十分は、20%程度であり、不十分は、80%程度である。「教員を対象とした調査」では、小学校の十分が33.6%、不十分が66.2%で、中学校の十分が25.0%、不十分が74.8%である。今回の調査の十分が低くなっているのは、教科化の流れの影響から、教員が授業の実施状況を改めて意識化したことによるものと考えられる。

管理職と教諭を比較すると、管理職の十分は、40%程度と高くなっている。管理職のデータ数が少ないため、言及は難しいが、希望的な実施状況と捉えることができるかもしれない。

十分に行われていない考える理由については、小学校も中学校も、「忙しくて他

の指導に時間を取られがちである」、「指導の仕方が難しい」、「道徳の時間の目標や意識が十分に理解されていない」を挙げている。「教員を対象とした調査」でも、同じ理由が挙げられている。しかし、文部科学省の道徳教育実施状況調査（2012）では、道徳の時間授業時数は35時間実施しているとの報告もある。意識調査と実施状況調査のずれは、今後のインタビュー等で明らかにしていきたい。

「忙しくて他の指導に時間を取られがちである」の理由は、道徳の授業が、他の教科等に比べて軽んじられている傾向があると考えられる。この問題は、道徳科として教育課程に位置づけられたことで解決するであろう。

他の二つの理由の「指導の仕方が難しい」、「道徳の時間の目標や意識が十分に理解されていない」は、道徳の授業をする上で難しい点と同じである。

5.3 子どもたちに育てたい力

子どもたちに育てたい力は、小学校も中学校も、「善悪の判断・自律・正直・誠実・自由と責任」、「親切・思いやり・感謝」、「生命の尊さ」の順になっている。「教員を対象とした調査」では、小学校も中学校も、「思いやり・親切」、「生命の尊重」、「基本的な生活習慣・節度・節制」になっている。

今回の調査で、「善悪の判断・自律・正直・誠実・自由と責任」を多くの教員が育てたい力に挙げているのは、子どもの規範意識や社会性の低下やいじめ問題等の対応と道徳教育が結びつけられた背景など、基礎的に教えなければいけないことをしっかり教えることの必要性を教員が求めているからなのであろう。

小・中学校の学校種によるニーズの差を考察する。小学校は、「善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任」、「節度、節制」、「個性の伸長、向上心」、「親切、思いやり、感謝」、「友情、信頼」が、1%水準で有意に高かった。内容項目のA 主として自分自身に関する事、B 主として人とかかわりに関することについては、小学校の教員が育てたい力と考えている。

中学校は、「よりよい学校生活」、「感動、畏敬の念」が、1%水準で有意に高かつ

た。C 主として集団や社会とのかかわりに関すること、D 主として生命や自然、崇高なものとかかわりに関することを中学校の教員が育てたい力と考えている。小・中学校の教員のニーズは、子どもの発達段階を意識していることがわかる。

5.4 道徳の授業力を高めるために必要なこと

道徳の授業力を高めるために必要なことは、「達人の授業参観」、「学級経営の充実」、「先輩の授業を参観」の順で挙げている。小・中学校で比較すると、「達人の授業参観」、「先輩の授業を参観」は同じであるが、小学校は、「学級経営の充実」を挙げ、中学校は、「校内研修」を挙げている。先輩や達人の授業参観のニーズが高く、それをモデルにすることで、授業力が上がると考えているようである。大学の教職課程の道徳教育の科目への期待でも、「道徳授業の観察や実体験」を挙げている自由記述が多いことから、道徳の授業力を高めるためには、教員は、自分もこれから教員になる学生にも、授業参観を求めている。

5.5 これからの道徳の授業について

35項目の質問から因子分析を行い、3個の因子「多様なアプローチ」、「ねらいにせまる授業」、「メディアの活用」を抽出した。道徳の授業が十分・不十分群の比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、不十分の群が1%水準で有意に高い。充実した道徳授業のために最も肝要なことは、発問や終末の工夫など、他の授業と変わらぬポイントが意識されている。

次に、小・中学校で比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、小学校の群が1%水準で有意に高い。道徳という抽象的な学習対象について、より確かな授業デザインが児童のためには必要と認識されているのかもしれない。

経験年数で比較をすると、「多様なアプローチ」と「メディアの活用」で、経験年数10年未満の群が1%水準で有意に高い。若手のほうが新しいことの導入に積

極的な傾向があると考えられる。

性別で比較をすると、「ねらいにせまる授業」で、女性の群が1%水準で有意に高い。この結果の解釈には注意が必要であり、小学校教員に女性が多いことによる、見かけ上の関係である可能性にも考慮するべきであろう。

5.6 大学の教職課程の道徳教育の科目への期待

自由記述の回答数が多かったのは、「具体的な指導方法・多様な指導方法」「道徳授業の観察や実体験」「道徳資料の研究や開発」である。これからの道徳の授業についての3因子の第1因子の「多様なアプローチ」、第2因子の「ねらいにせまる授業」と同じである。道徳教育の科目への期待は、教員がこれからの道徳の授業について考えていることであり、「多様」「具体的」「モデル」「資料」「観察」「実体験」などの特徴的な記述が見られ、道徳の授業に直接役立つものを期待している。

5.7 今後の課題

今回の調査では、道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査を行ったが、調査内容に限界もあった。インタビュー調査などの質的研究を行って、さらにより具体的なニーズを把握できれば、教員のニーズを反映した道徳教育の科目の設定が可能になるであろう。

引用・参考文献

- 廣済堂あかつき道徳教育研究会編 (2015). 道徳教育の視座6. あかつき.
松下良平 (2011). 道徳教育はホントに道徳的か? — 「生きづらさ」の背景を探る
一. 日本図書センター.
文部科学省 (1958). 小学校指導要領, 中学校指導要領.
文部科学省 (1968~1999). 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領.

- 文部科学省 (1992). 学制百二十年史. ぎょうせい.
- 文部科学省 (2002). 心のノート.
- 文部科学省 (2008). 小学校学習指導要領, 中学校学習指導要領.
- 文部科学省 (2012). 道徳教育実施状況調査.
- 文部科学省 (2013). 教育再生実行会議第一次提言.
- 文部科学省 (2014). 道徳教育の充実に関する懇談会.
- 岡田雄太 (2015). 「道徳」の教科化は本来の道徳教育の目的を目指すことができるのか. *東京福祉大学・大学院紀要*, **6-1**, 67-72.
- 作田澄泰・中山芳一 (2016). 道徳教科化に向けた今後の新しい教師教育と学校教育の在り方に関する考察—総合単元的な道徳授業カリキュラムから考える真の道徳教育の検証—. *岡山大学教師教育開発センター紀要*, **6**, 1-10.
- 住友 剛 (2013). 「道徳の教科化」をめぐる教育政策の動向の再検討—「教科化」とは別の道徳教育を構想する必要性をめぐって—. *京都精華大学紀要*, **44**, 86-102.
- 柴山英樹 (2014). 中学校の道徳教育における教材研究と指導方法に関する一考察—小学校読み物資料を中学校で読み直すための試案—. *日本大学教育学雑誌*, **50**, 97-108.
- 新川 靖(2016). 効果的な道徳教育のための指導方法についての研究～道徳学習プログラムの実践をもとに. *関西福祉大学発達教育学部研究紀要*, **2(1)**, 37-45.
- 住友 剛 (2013). 「道徳の教科化」をめぐる教育政策の動向の再検討—「教科化」とは別の道徳教育を構想する必要性をめぐって—. *京都精華大学紀要*, **44**, 86-102.
- 中央教育審議会初等中等教育分科会(2014). 道徳教育の専門部会のまとめ. 文部科学省
- 中央教育審議会(2014). 道徳に係る教育課程の改善等について (答申). 文部科学省

東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」推進本部 (2012). 道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として〈結果報告書〉. 有限会社サンプロセス.

謝 辞

- ・本研究調査実施に際し、千葉県公立小・中学校、千葉大学教育学部附属教員養成開発センター土田雄一教授の協力を得たことに感謝の意を表します。

Appendix 1 自由記述のカテゴリー分類

分類項目	含まれる内容の例
道徳教育の意義	道徳教育の重要性 必要性 有効性 人間形成の基盤・根幹 道徳教育のよさ
道徳教育の思想・歴史・外国の様子	道徳の思想 道徳の歴史 外国の道徳教育 共生 グローバルな視点 宗教・哲学・人間学との関係
道徳性の発達・子どもの課題	子どもの心の発達 心や成長の課題 子どもの心理 自尊感情 子ども理解 障害の理解 心の変化・変容
社会の問題・教育課題	社会問題 人権教育 平和の問題 人種等の問題 家庭教育 規範意識 公衆道徳 生命尊重 環境問題 メディア
道徳の目標や内容	内容項目 道徳的实践力 生きる力 善悪 人間として大切なこと 育てたい子ども像
教育課程の位置付け・全教育活動	教科等との関連や違い 全教育活動で行う道徳教育 体験活動 ボランティア活動 生徒指導 人間関係づくり
学習指導案の書き方	学習指導案の作成方法 道徳の時間の指導計画
道徳資料の研究や開発	効果的な資料 資料の生かし方 資料分析の方法 心のノート 資料(教材)さがし 教材研究 資料の自作
具体的な指導方法・多様な指導方法	指導法(指導方法) 指導理論 指導技術・技能 実践例 授業の作り方・進め方 展開の方法 板書やノート 模擬授業 グループ活動 授業分析・評価 ロールプレイ エンカウンタースキル
道徳授業の観察や実体験	授業観察・参観 教育実習 授業の実施 研究会などへの参加
学生自身の人格形成	学生の道徳性・生き方 社会人としての常識 様々な人・先人の生き方や考え方 学生の人権感覚 学生の心の教育や体験の充実 コミュニケーション能力
教師としての人格形成	子どもを受容する力 教師の専門性 共に歩む構え 教師としての礼儀 熱意 やる気 教師(大人)の人権感覚
理論と実践のバランス・違い	シラバスにおける理論面と実践面のバランスの問題
多様な情報の提供	情報の多様な提示 サイトの活用
教職や授業への意欲	教職への意欲 授業への意欲 道徳の好意的受け止め
教職課程や制度	道徳を主先に 単位数を充実
評価	評価の在り方

Appendix 2 調査の質問項目

道徳の教科化にむけての教職員のニーズ調査

※質問紙は、両面に印刷されています

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、道徳は、「特別な教科 道徳」として、教科化されます。このアンケートは、道徳の授業について、そこに関わっている先生方にお答えいただくものです。I あなたの所属やご自身について、II 現在の道徳教育については、回答欄に番号を書いてください。III これから道徳の授業については、「あてはまる」～「あてはまらない」の5つの中から、1つに○をしてください。本調査は無記名式で、データ入力後は截断処理をして、プライバシーは遵守されます。本調査に関してのご意見やご質問などがございましたら、以下までご連絡ください。よろしく願いたします。

研究責任者 神田外語大学 小柴 孝子

連絡先〒261-0014 千葉市美浜区若葉1-4-1 直通Tel : 043-273-1851 (小柴)

I あなたの所属やご自身について

1-1 あなたの該当する学校種の番号を書いてください。

- 1) 小学校 2) 中学校

1-2 あなたの職種の該当する番号を書いてください。

- 1) 管理職 2) 教諭 (講師も含む)

2. あなたの該当する性別の番号を書いてください。

- 1) 女性 2) 男性

3. あなたの該当する教員経験年数 (講師も含む) の番号を書いてください。

- 1) 10年未満 2) 10年～20年未満 3) 20年～30年未満 4) 30年以上

4. あなたが小学校の場合は、最も関心の強い教科を一つだけ、中学校の場合は、担当する教科を一つだけ選んで、番号を書いてください。

- 1) 国語 2) 社会 3) 算数、数学 4) 理科 5) 生活(小学校だけ)
6) 音楽 7) 図画、工作、美術 8) 体育、保健体育 9) 家庭、技術家
10) 外国語

5. あなたが現在勤務する学校の規模を教えてください。

- 1) 11学級以下 2) 12～24学級 3) 25学級以上

II 現在の道徳教育について

1. 道徳の授業をする上で、難しいと思う点はどんなことですか。1つ選択をしてください。

- 1) 資料を探す 2) ねらいの設定 3) 指導方法
4) 発問 5) ワークシートの作成 6) 導入
7) 意見の交流 8) 展開 9) 終末(まとめ)
10) 特性に応じた児童生徒への配慮
11) その他 ()

道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査

2. あなたは、広く小学校全体または中学校全体を見たときに、現在の道徳の授業について、どう思いますか。
あてはまる方の番号を書いてください。

1) 十分に行われていると思う

2) 十分に行われていないと思う

※質問2で 2) を選択した先生にお尋ねします。 ←

3. その理由は何だと思えますか。あてはまるものの番号を書いてください。(複数選択可)

- 1) 道徳の時間の目標や意識が十分に理解されていない
2) 忙しくて他の指導に時間を取られがちである
3) 生徒指導(生活指導)を行っていることで十分だと考える
4) 通知表の成績を付けられないので後回しになる
5) どのように役立っているのかわかりにくい
6) 週1時間という授業時間が少なすぎる
7) 魅力のある資料や教材が少ない
8) 指導の仕方が難しい
9) 指導が形式化するなどして魅力がない
10) その他 (

4. あなたは、道徳教育で、子どもたちにどのような力を育てることが重要だと考えますか。以下は改訂学習指導要領に示す内容ですが、全体から特に重要だと考えるものを5つ選択してください。

- | | |
|--|--|
| 1) 善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任
3) 個性の伸長、向上心
5) 真理の探求、創造
7) 礼儀
9) 相互理解、寛容
11) 公正、公平、社会正義
13) 家族愛、家庭生活の充実
15) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
17) 生命の尊さ
19) 感動、畏敬の念
20) よりよく生きる喜び | 2) 節度、節制
4) 希望と勇気、努力(克己)と強い意志
6) 親切、思いやり、感謝
8) 友情、信頼
10) 規則の尊重、遵法精神、公徳心
12) 勤労、社会参画、公共の精神
14) よりよい学校生活、集団生活の充実
16) 国際理解、国際親善、国際貢献
18) 自然愛護 |
|--|--|

--	--	--	--

5. 教師が道徳の授業力を高めるためにはどのようにしたらよいでしょうか。3つ選択してください。

- | | |
|---|---|
| 1) 道徳の校内研修を増やす
3) 道徳の達人などの授業参観をする
5) 道徳以外の教科の指導力を向上させる
7) 道徳の指導案作成の研修をする
9) 先輩の道徳の授業を参観する | 2) 道徳の公開研究会に参加する
4) 自分の道徳の授業を公開する
6) 学級経営を充実させる
8) 道徳に関する雑誌や書籍を読む
10) 授業の振り返りをして分析をする |
|---|---|

Ⅲ これからの道徳の授業について

1. これからの道徳の授業についてどのように考えますか。 それぞれ「そう思わない」から「そう思う」までの5つの答えがあり、1、2、3、4、5と数字が記してあります。それぞれあてはまるものを1つずつ選び、数字に○をつけてください。

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	わりとそう思う	そう思う
1) 資料提示の工夫をする	1	2	3	4	5
2) 授業のねらいにせまれるように発問を工夫する	1	2	3	4	5
3) 子どもの本音と言えるような安心感のある学級経営をする	1	2	3	4	5
4) NHKなどの道徳番組を使う	1	2	3	4	5
5) ウェビング、ランキングなどの指導方法を取り入れる	1	2	3	4	5
6) エンカウンターやソーシャルスキルなどの心理教育を取り入れる	1	2	3	4	5
7) 板書を工夫する	1	2	3	4	5
8) 学級の人間関係の問題を取り入れる	1	2	3	4	5
9) 各教科や総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図る	1	2	3	4	5
10) 新聞記事やニュースなどの報道を使う	1	2	3	4	5
11) 都道府県や市町村などの資料を使う	1	2	3	4	5
12) 子どもの調べ学習などを取り入れる	1	2	3	4	5
13) いじめなどの現実の問題に対応する	1	2	3	4	5
14) 評価では、子どもを比較せずに、いかに成長したかを重視する	1	2	3	4	5
15) 子どもが討論する学習を取り入れる	1	2	3	4	5
16) 1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をする	1	2	3	4	5
17) パソコンやインターネットで教材作成や資料の収集をする	1	2	3	4	5
18) 授業中の資料提示などにパソコン等のICTを使う	1	2	3	4	5

裏面に続きます→

道徳の教科化にむけての小・中学校教員のニーズ調査

19) 系統性（発達）を意識して、授業づくりをする	1	2	3	4	5
20) 授業の実施への保護者の協力を得る	1	2	3	4	5
21) 展開の終末の工夫をする	1	2	3	4	5
22) ネット上のルールや情報モラルの指導を充実する	1	2	3	4	5
23) 「私たちの道徳」を使う	1	2	3	4	5
24) 学期別や月ごとにテーマを決めて重点的な学習をする	1	2	3	4	5
25) 学級の子どもの理解をして、実態を踏まえた授業をする	1	2	3	4	5
26) 問題解決的な授業にする	1	2	3	4	5
27) 子どもの学習状況や道徳性に係る様子を継続的に把握し、評価する	1	2	3	4	5
28) ねらいを意識した授業づくりをする	1	2	3	4	5
29) 役割演技（ロールプレイ）などの学習を取り入れる	1	2	3	4	5
30) 郊外の体験学習などを取り入れる	1	2	3	4	5
31) 担任以外の教職員も授業に参画する	1	2	3	4	5
32) 道徳の学習指導要領の変更点を知る	1	2	3	4	5
33) 性的マイノリティの理解などの現代的課題を取り上げる	1	2	3	4	5
34) ビデオなどの映像資料を使う	1	2	3	4	5
35) 外部からゲストティーチャーを招いて授業をする	1	2	3	4	5

2. これからの道徳教育のために、大学の教職課程の道徳教育の科目では、どのような指導や内容を期待しますが。自由に書いてください。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。皆様の貴重なご意見ですので、お手数ですが、回答に漏れがないかのご確認をお願いします。